

優れた技術の蓄積とITの積極活用で高品質・適正価格・変量体制を追及

株式会社三和鋳螺製作所 大阪府東大阪市

自動車部品から家電製品、建築、医療まで様々な製品に不可欠な「ねじ」。ねじは、小さなものであるが、産業基盤を支える大切な役割を担っている。

製品の多様化、ライフスタイルの変化に伴い、ねじに対するニーズも多様化・高度化している。また、大量生産時代が過ぎ去り、多品種・小ロットの生産対応が求められている。

このような中、高品質・適正価格を維持しながら多品種・小ロットの注文生産を得意とする、ねじ製造メーカー「株式会社三和鋳螺製作所」の活躍の場は広がってきている。

会社概要



会社名：株式会社三和鋳螺製作所
所在地：大阪府東大阪市吉田本町
2丁目7番9号

電話：072-963-0381（代表）

FAX：072-964-5502

設立：昭和25年8月

代表者：代表取締役社長 榎本 宏志

資本金：78,940,000円

従業員：82名

事業：各種圧造・切削・プレス
製品等、特殊サイズ及び
特殊形状ねじの受注生産、
あらゆる産業向けの長尺
ボルト・Uボルト

URL：<http://www.sanwabyora.co.jp/>



株式会社三和鋳螺製作所の本社・工場

創業以来、『お客様第一と品質不良0をめざす』

株式会社三和鋳螺製作所は、多数の特殊形状、特殊サイズの製品を持ち、自動車部品、建築部品、弱電部品、医療・介護用部品等、多様な製品を創り出している。各種圧造・切削・プレス製品の生産のほか、特殊サイズ及び特殊形状ねじの受注生産などを手掛け、多品種・小ロットの注文生産を得意としている。

同社は、昭和20年10月に創業し、ねじの製造・販売を開始。同25年8月に株式会社三和商会として東大阪市にて設立し、同32年3月に社名を株式会社三和鋳螺製作所に変更した。

同社では、創業以来、『お客様第一と品質不良^{ゼロ}0をめざす』を目標に掲げ、生産システムの高度化と厳密な検査機能の徹底により、ユーザーニーズに的確に応える高品質な製品を適正価格で提供し続け、高い信頼を獲得してきた。

最近では自動車部品の販売が増えてきており、量産体制が求められている。このため、150社を越える協力工場とのネットワークを活用して小ロットや大量生産にも対応できる変量体制を構築し、顧客の細かな要求（金額や品質等）にも全てに前向きに答えていく姿勢を大切にしている。



特殊サイズ・特殊形状ねじ等

自動車部品（上）・
建築部品（下）

高品質・適正価格・変量体制を追求

「鉄はヤワラカイもの」との視点に立ち、自由自在に金属を操ることができる、磨き抜かれた技

術とノウハウを蓄積してきた。オリジナリティあふれる「冷間圧造・転造技術・切削技術」は、確かな技術に裏付けられた証明である。これらは、全てノウハウとしてコンピュータにインプットされており、あらゆる生産ラインをシミュレーションできる。更に、最新鋭の機械とIT、従業員の知恵を駆使し、生産性の更なる向上のほか、高品質・適正価格・変量体制の追及を続けている。



機械化の進んだ工場（左）と社内での改善例（右）

同社では、品質を最優先させたTQCを採用している。ユーザーが要求する品質レベルを確保するため、生産システムの各工程にチェック部門を設けて不良品が次工程に流れないように確認を徹底している。また、最高の品質レベルの実現に向け、新たな品質管理システムの研究にも熱心である。

その一つが自社開発の検査管理システム「蒼龍^{そうりゅう}」（部署単位で導入）である。現場重視の簡単操作で、計測作業での測り間違い、読み間違い、勘違いなどによるミスを軽減するほか、検査成績書の自動作成や、蓄積しているノウハウの製造指図書への反映などが可能となっている。



検査管理システム「蒼龍」

また、圧造時のトラブルを防ぐため、異常を検出する装置「検太くん」を共同で開発し、同社の全ての機械に設置している。他社からの要望もあることから、同装置の販売を協力会社に委託し、これまでに約400台を販売した実績がある。

榎本社長は「顧客と同等レベル以上の品質管理の維持・向上に努めており、営業マンにも品質管理の徹底振りをPRするように指導しています」と、同社の品質管理に強い自信を持っている。

ITの積極活用で迅速かつ確実に即応・即納

同社はIT化にも積極的で、正社員72人に対し約60台のパソコンを導入しており、平成17年6月には基幹システムを一新した。生産・販売管理の全てのデータを一つのシステムに統合することで、取引先からの要求に迅速かつ確実に対応できる体制づくりを目指し、努力を続けている。

本社、水走工場、UI工場の3拠点間では、光ファイバーを用いたインターネットVPN（*）により相互に高速なデータの受け渡しが可能で、工場作業担当者の手を煩わせることなく、工場の製造予定、作業状況などを知ることができる。

*Virtual Private Networkの略で、公衆回線をあたかも専用回線であるかのように利用できるサービス。

配送用トラックにはノートPCを積載しており、配送状況をリアルタイムに情報収集できる。また、本社のリフトにパネルPCを設置し、無線LANで社内ネットワークと接続することで、入荷した製品の棚管理、入庫・出庫管理をコンピュータで行えるようにしている。

全てのデータは、本社のサーバーに常に最新の状態で蓄積されており、これらのデータを営業担当者が各自のパソコンで素早く確認できる。

製品の高付加価値化と新素材の実用化に向けて

原材料価格が高騰するなか、その対策として製品への価格転嫁が難しいため、新製品の投入に力を入れると共に、品質管理の厳しい自動車産業で培った技術を建築業界向けに活用し、ねじやボルトの付加価値を高めていくことに注力している。

現在、戦略的基盤技術高度化支援事業の採択（昨年8月）や経営革新計画の承認（同12月）を受け、鋼線メーカーと連携して、高強度で超微細粒鋼の新素材ネジの実用化を目指しており、更なる躍進が期待される。（島田、山城）